

■米国：EIA、米国の原子力発電設備容量は2035年まで少し増加と予測

2012年1月25日の報道によると、米国エネルギー省（DOE）のエネルギー情報局（EIA）は、同国の原子力発電の設備容量は2035年まで増加していくと予測している。EIAのエネルギー展望2012年の事前公開版によると、同設備容量は2011年の1億100万kWから2035年の1億1,200万kWまで伸びるとしている。新たな設備容量は1,000万kWの新プラントの建設と700万kWの既存プラントの増出力によるとしている。一方、既存の原子力発電設備全てが必ずしも60年を超えて運転認可更新をしないであろうから600万kWの設備は計画期間をもって退役すると予想している。また、原子力の発電電力量は2010年の8,070億kWhから2035年の8,940億kWhへと11%増加すると見ている。ただし、原子力の発電電力量に占める割合は20%から18%に減少するだろうとしている。同報告書の正式版は4月26日に発刊される予定である。